福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（12 月分）

留学先大学：Vytautas Magnus University
氏名：金子　のの子

Žiema(冬)がやってきました！帰国日が近づき、会いたい人に会うため、食べたい物を食べるため、外食が多くなった 12 月-Gruodis-です。7 日が大雪で、あたり一面雪景色が広がる杉原ハウスにて雪だるまを作りました。なかなか可愛らしい出来です！今月は、日本人学生との関わり、冬休みの旅行、年越しについてお伝えします。それでは、12 月の報告書はじめます！

【良き仲間たち】

VDU では、30 人近くの日本人学生がいます。皆同じ Baltija 寮に住んでいるため(数名は他の学生寮 Solo Society)、自然と顔なじみになり、何かあれば Messenger のグループチャットで呼びかけたりします。留学時期が異なるため、前のセメスター(前セメ)と今期セメスター(今セメ)というふうにメンバーが分かれます。食器や炊飯器、その他生活用品は前の人が残していったものが大量にあるのでそれを新しく来たメンバーに受け継いで使い、退寮する前に各部屋でバザーを行うのが恒例となっています。

◆どう関わっていくか

話がそれましたが、日本人学生のつながりは強いです。よく留学先では日本人と親しくするのはよくないと言われます。それは、英語よりも日本語を使ってしまう、日本人でかたまりができてしまうなどの理由が挙げられますが、結局それは自分次第です。自分で英語を使う環境は作れるし、自ら進んでほかの留学生に話しかけることはできます。寮で生活して気づいたのは、日本人がグループをつくるのと同じように、ほかの留学生も国同士でかたまってしまうことが、ごく自然な事だということです。英語で会話する環境は少なからずストレスがかかっているため、やはり母語を話せるというのはどこかホッとする安心感があり、精神的な部分でプラスになっているのでしょうか…。一方で、日本人同士の人間関係に悩む場合もあるかもしれません。留学先に来てまでそんなことに悩まされるのは嫌ですが、お互いにいい距離感を保つことが必要だと感じます。

ひとつ言えるのは、リトアニアで出会う日本人学生は人間性豊かな人が多いです。私は、彼らから考え方や勉強に対する姿勢など多くの刺激をもらいながら日々過ごすことができました。

【しめくくりの旅】

12 月 13 日～27 日(15 日間、すべての費用約 5 万円)で最後の旅行に行ってきました。

Berlin→Dresden→Prague→Zagreb→Ljubljana→Vienna→Krakow→Auschwitz

・ドレスデンでは、ドイツ最古のクリスマスマーケットといわれる The Dresden Striezelmarkt へ。オレンジ色のイルミネーションが温かく可愛らしい雰囲気を醸し出し、そこにいるすべての人がクリスマスムードに包まれています。記念としてホットチョコレートを飲んだカップを持ち帰ってきました(クリスマスマーケットでは国・地域ごとのデザインがあります)。

・電車の簡易ベッドで揺られながらの旅にずっと憧れを抱いて十数年、ついにこの旅で念願の夜行列車に乗ることができました！！日本に比べて夜行列車が発達しているヨーロッパ。ウィーンから Nightjet と呼ばれる夜行列車を利用してクラクフまで行き、そして旅の最終地アウシュヴィッツへ。季節が冬だったからか、6 つのベッドがある女性専用部屋(ひとり 39€ : 約 4850 円)を貸し切りで使えて、電車に揺られながら幸せなクリスマスを迎えることができました(笑)　宿代を浮かせるために空港泊したり、夜行バス・列車を利用するのも、ちょっぴりドキドキして楽しいものですよ！

◆アウシュヴィッツ＝ビルケナウ収容所

　ポーランド・クラクフからアウシュヴィッツ強制収容所までは、バスで 1 時間半ほど。本当の地名は、Oświęcim オシフィエンチムといい、ドイツ人が聞き間違えて Auschwitz アウシュヴィッツとなったそうです。そのため、バスの行き先は Oświęcim と書かれています。

　実は、旅行へ出発する前にここで働く唯一の日本人ガイド・中谷剛さんにメールをしてガイドのお願いをしていました。私のほかにも直接連絡し参加している日本人の方が 10 人ほどいて、12 月 26 日、とても寒く曇り空の中、中谷さんのツアーはスタートしました。

　中谷さんは、私たちにすべてを伝えようとするのではなく、また、事実を押し付けるように解説するのではなく、決まった展示ポイントに立ち止まり、そこで何が起きていたのか、展示品・写真が伝えるものとは何か、日本が抱える問題についても触れながら淡々と語る姿が印象的でした。マジョリティからの排除や強制労働、民主主義の弱さ、歴史から何を学び伝えていくのか、日本が向き合わなければならないことに関連付けて説明することで、それを聞いている側は日本人として問いかけら

れているように感じるのです。そして、自分の国の問題と置き換えることで、アウシュヴィッツで起きていたことがより身近なものとして捉えられる、このように歴史を伝えていく方法もあるんだなと思ったのと同時に、杉原千畝記念館での私の伝え方はどうだっただろうかと振り返る大切なきっかけにもなりました。歴史を通じて何を感じ考えるのか、さまざまなメッセージが込められた中谷さんのツアーに旅の最後で参加できたこと、本当によかったです。

【カウナスの年越し】

「海外で年越ししたこと？... うん、あるよ。」
そんなことを言ってみたい！！ということで、残りましたカウナス。笑

寮の近くにある日本料理屋カマクラのご主人がみんなで年越ししようと声をかけてくださり、お店で年越しパーティーをしたのです。巻き寿司、おいなりさん、お好み焼き、お蕎麦など豪華メニューが並びます。0 時を迎える 5 分前に外へ出て川沿いの方を歩くと、すでにいたるところで花火があがっています。川にかかる橋には大勢の人が。みんなでカウントダウンをして、12 月 31 日、日本は 7 時間前に新年を迎えたようですが、こちらでもしっかり 2019 年を迎えることができました！

◆おわりに

2018 年 1 月から書き始めたこの月例報告書もこれで最後になります。まずは、国際課の方々の心強いサポートに心より感謝申し上げます。そして、読んでくださった方、報告書を読んでいただき本当にありがとうございます。この報告書を書くとともに、心の中で月ごとの振り返りや反省をし、文章で伝えることの難しさを感じながらいた私でしたが、みなさんに留学生活、リトアニア、そしてカウナスを少しでも身近に感じてもらえたら嬉しいです。一年間ありがとうございました！Ačiū Labai!